

令和7年度自閉スペクトラム症にかかわる 方のためのオンライン連続セミナー全3回

特定非営利活動法人 滋賀自閉症研究会たんぽぽ

〒525-0031 滋賀県草津市若竹町 2-8

助成事業の概要

令和7年度のセミナーは、「いま、改めて自閉症支援を考える ～その人らしく地域で暮らすために～」と題し、原点に立ち返り、自閉症の人たちを同等の立場としてきちんと向き合っているのか、彼らの一人ひとりを正しくとらえた支援になっているのか、人権を重んじる具体的な支援とはどういうものなのか、という自閉症という障害の理解や支援の根っこを考えてみたいと思い、家族、支援者を含む彼らにかかわるすべての人を対象に開催しました。

事業の実施に当たり、会員（正・賛助）及び滋賀県内の療育機関・教育機関・障害福祉事業所・保護者宛にチラシを郵送しました。当法人 HP でも参加募集案内を行っています。オンラインでの開催とし、各回ごとに見逃し配信（2週間・当法人運営の障害福祉サービス生活介護型事業所職員には4週間）やアンケートを実施いたしました。

第1回

7/26 障害って何？ ASD に関わるその前に知っておきたい5つのこと

= 諏訪利明氏

第2回

9/13 ASD って何？ ASD の人たちの可能性を引き出すために知っておきたい5つのこと

= 諏訪利明氏

第3回

10/25 「自立したい、人の役に立ちたい」自閉スペクトラム症のある人の自己実現のために幼児

期・学齢期・成人期をつなぎ、生涯一貫した支援体制を

= 檜尾 めぐみ氏

事業の成果

各回70名の受講希望者がありました。（内訳は、正会員30名、賛助会員7名、一般19名、当法人運営障害福祉サービス生活介護型事業所職員14名）県外からの参加者7名のうち3名が北海道の方で、オンライン開催ならではの利点がありました。また、見逃し配信の視聴回数は第1回100回、第2回120回、第3回100回となっており、いずれの回も複数回視聴されておられると予想され、学習意欲の高さを感じています。

第1回は、「障害とは何か」という基本に立ち返り、障害を否定的なものとはとらえず、「ちがいを認めて共生していくことができるように、一人ひとりに合わせた支援の上に成り立つ「公正な」社会で生きるために、サポートつきの自立があってもいいという内容のお話でした。

第2回は、「ASD とは何か」について、障害ではなく「ちがいを捉えることで、彼らの可能性を引き出すために、ASD の人の学習スタイルや特性を理解したうえでの支援が非常に大切であることを学びました。

第3回は、ASD の人たちの幼児期から成人期まで幅広く、一貫した支援体制を構築されており、「自立したい、人の役に立ちたい」という彼等の想いを実現するため、20年ビジョンを定め、生き生きと社会参加できる街づくりに尽力されて

いるお話でした。

※受講者アンケートより感想

（第1回）◎「障害」という生活のしづらさは、周りの理解や配慮、支援によって改善されることを理解しました。◎今までは何でも自分ですが自立だと思っていましたが、自分でできることをすることが自立なんだと知りました。

（第2回）◎一人ひとり違って個性があること、違いを知ることの大切さを感じました。◎その人に沿っての支援を考えると、その人の視点から見ることを忘れないようにしたいと思います。

（第3回）◎お一人お一人に丁寧なアセスメントをされた上での強みと芽生えを活かした支援をされているところがとても素晴らしかったです。◎PECSでのコミュニケーション方法の大事さや、これからもっと広がっていくことへの大切さを学びました。

（セミナー全体）3回ともわかりやすかった、今後に活かそうであるという回答がほとんどであり、セミナー開催の意義を感じることができました。

成果の広報・公表

各回セミナー終了後、法人の広報誌（年4回発行）である「たんぽぽ新聞」9月号に第1回セミナー、12月号に第2・3回セミナー報告をする記事を掲載しています。他には、HPやFacebookでの報告や案内をしています。また、セミナーでご講演くださった第3回目の講師の方の「夢を目標に」進めておられるスライドを表紙に用いて、新聞の記事に関心が持てるようにしました。

今後の展開

今回は、参加者数に対し、見逃し配信視聴回数が多く、複数回見ておられる方がおられる結果となり、学習意欲の高さを感じ、セミナーを今後もオンラインで開催していく意義を感じております。令和8年度も、自閉スペクトラム症の方が、社会で生き生きと暮らしていけるように、セミナーを開催していく予定です。

令和8年度セミナー予定

◎2回開催予定

第1回	自閉スペクトラム症の理解	=	未定
第2回	現場で役に立つ支援	=	未定